

第4学年東組 国語科学習指導案

「ここがクライマックス！山場の一文で本を紹介しよう ～『走れ』～」

学習指導者 岡根 平

1 学級（33名）の実態

（1）共に学びを進め合うことに関する学級の実態

本学級の子供たちは、これまでの学習を通して捉えた国語科の課題解決の方法（「会話や行動に着目して気持ちを想像する」など）を「読みの技」として蓄積してきている。質問紙調査の結果によると、「目当てを解決するために、何かから取り組むとよいか考えている」など、解決の見通しに関わる項目についての回答の値が他の項目に比べて低い。実際の授業でも、友達と相談しながらどの「読みの技」が使えるか選んでいる姿は見られるが、それを使ってどのように課題解決していくか（一人で、友達と、みんなで）や、それらをどの順序で取り組むかなど、本時の課題解決に向けた具体的な取り組み方まで見通しをもっている子供は少ない。

（2）本単元の学習に関する学級の実態

昨年度、物語教材を扱った単元では、ポップやカードなどで物語を紹介する言語活動を行ってきた。質問紙調査によると、32名の子供が本を紹介する活動に対して好意的に捉えており、物語を誰かに紹介する活動への意欲が高いことが伺える。レディネステストの結果からは、多くの子供が人物の気持ちが分かる叙述を見付けることができている一方で、「人物の気持ちが一番変化した瞬間の一文はどこか」という質問については、12名がクライマックス（中心人物の気持ちが一番大きく変容した瞬間）以外の文を答えており、大まかな変化は捉えられているが、変化の瞬間を正確に捉えられていない子供もいることが伺える。

2 本単元で目指す「共に学びを進め合う子供」の姿と習得を目指す「解決の見通しをもつ」方法

課題設定

「クライマックスの一文をしおりにして、全校生に本を紹介しよう」という単元の目標の達成に向けて作成した学習計画を見ながら、前時まででできたことと、まだできていないことを見付け、目標達成のために必要なことを選び、本時取り組むべき課題として設定する。

解決の見通し 方法：「取り組むことと、その順番を決める」

課題解決に向けて、「学び方カード（取り組み方や、使えるような「読みの技」を明記したカード）」を選びながら、学習形態や時間配分と、その順序について計画を立てる。例えば⑤時では、「のぶよの気持ちを想像するために、まずは一人で考えて、次に同じ考えの友達と考えてみよう。その時は、のぶよの『行動や会話に注目』して考えようと思うよ」「僕は昨日、自分とは違う言葉から考えていた友達と交流したら、自分が気付いていなかった気持ちを見付けられたよ。だから『違う考えの友達と交流』することも使えそうだよ」など、立てた計画を友達と相談し合うなどして、本時の課題解決に向けた見通しをもつ。

解決

立てた本時の計画を基に、中心人物の気持ちの変化について場面の移り変わり結び付けながら想像する。例えば、二場面ののぶよの気持ちを想像する際には、「けんじが走るぎりぎりまで校門で待っていたと書いてあるから、一場面の『憂鬱』に加えて、お母ちゃんへの『いらいら』が増えていると思うよ。自分も約束を破られたら怒ってしまうな」「そうだね。他にもお母ちゃんの割り箸のメッセージや、怒ったけんじの様子を見て、『二人を何とかしなきゃ』という気持ちも増えたんじゃないかな」「確かに。のぶよはお母ちゃんに短距離走を見てもらえるのに、嬉しそうにしていないね。1場面の『憂鬱』な気持ちの上に『いらいら』などが増えて、のぶよの心はぐちゃぐちゃになっているね」など、「読みの技」を使ったり、友達と考えを比べたりしながら、自分の考えがこれでよいか確かめていく。

振り返り

課題解決後には、本時の自分の学習の成果を捉えた後、どのように課題解決に取り組んできたかについても振り返ることで、学び方のよさを捉え、次の学習に生かせそうなことを見付ける。その後、本時新たに分かったことやできたことを基に、学習計画を見返しながら次に取り組みたいことを見いだしていく。

3 達成意欲を高める目標共有の工夫 ①時

3年生の時に行った、本を紹介する3種類の言語活動（物語の変化前とそのきっかけを紹介するポップ作り『ワニのおじいさんの宝物』、あらすじを紹介するカード作り『サーカスのライオン』、人物の性格を表したカード作り『モチモチの木』）を想起するとともに、成果物を見た他学年の子供や司書教諭からのコメントを見返し、本を紹介することの楽しさや言語活動の成果を感じられるようにすることで、今回も本を紹介したいという思いを高められるようにする。その後、今回はこれまでの紹介とは違った「クライマックスの一文だけをしおりにして紹介する」という活動を教師作成のモデルとともに提案し、これまでの紹介の仕方と比べる。クライマックスの一文だけを提示することで、この前後でどんな変化が起こったのだろうと読んだ人が本を手に取りたくなるという効果を捉えられるようにし、「クライマックスの一文をしおりにして、全校生に本を紹介しよう」という単元の目標を設定する。

4 単元計画と方法の習得の段階に合わせた手立て（本時 6/8）

次	単元計画	方法の習得の段階に合わせた手立て
一	<p>① 学習の計画を立てよう</p> <p>単元の目標を設定した後、本文を一読して把握した物語の内容と全8時間単元であることを基に、『走れ』でクライマックスの見付け方を練習し、自分の選んだ本のクライマックスを探し、という学習の計画を立てる。①時以降、教師が選んだ図書室にある中心人物の変化が捉えやすい物語について並行読書を行い、自分が紹介したい物語を選ぶ。</p>	<p>【認知段階】</p> <p>これまでの学習の中で、学び方カードを実際に使って本時の計画を立てる経験を教師と一緒にしており、取り組み方や時間配分、見えそうな「読みの技」を決めればよいことを教示している。また、方法を使うことで、解決に向けて何をすることがはっきりするというよさを共有している。</p>
二	<p>② どんなお話が整理しよう</p> <p>『走れ』の登場人物や中心人物、物語で起こる出来事を整理し、物語の大体を捉える。また、物語を一読して疑問を感じた文とその理由を出し合ってまとめる。</p> <p>③④⑤ のぶよの気持ちを想像しよう</p> <p>クライマックスの一文を見付けるために、のぶよの気持ちを想像する時に見えそうな「読みの技」を確認し、叙述を基に場面ごとののぶよの気持ちを想像する。その際、②時で確認した出来事や、けんじとお母ちゃんの行動や様子などにも着目し、場面の移り変わり結び付けながらのぶよの気持ちを具体的に想像し、山場を捉える。その過程で、②時で出し合った疑問を感じた文に着目した際には、その疑問の答えについても併せて考えることで、のぶよの気持ちをより具体的に想像できるようにする。</p>	<div data-bbox="1050 1144 1433 1373" style="text-align: center;"> </div> <p>【学び方カードの例】</p> <p>【想起段階】</p> <p>子供一人一人に学び方カードを配布したり、教室に方法とその手順を掲示したりすることで、自分で方法を想起し、解決の見通しを立てられるようにする。方法を想起しにくい子供には、学び方カードの使い方を一緒に確かめたり、カードを使って本時の計画を立てている友達の姿への注目を促したりし、方法を想起できるようにする。また、立てた計画を互いに見やすくしておくことで他者の姿を基に、方法を想起して計画を立てられるようにする。</p>
三	<p>⑥ クライマックスの一文を見付けよう</p> <p>これまでに捉えてきたのぶよの気持ちを基に、『走れ』の中で、一番大きいのぶよの気持ちが変わった瞬間（クライマックス）はどの一文かを探す。その際、選んだ一文やその理由について友達と考えを交流することで、叙述の前後ののぶよの気持ちや場面の移り変わりに目を向けながら、自分の考えを再考し、クライマックスの一文はどこかを捉える。その後、学習を振り返ることでクライマックスの見付け方について共有する。</p> <p>⑦⑧ 自分が選んだ物語のクライマックスの一文を見付けよう</p> <p>自分が選んだ物語の中のクライマックスの一文を見付ける。残り時間を意識しながら、これまでの学習で学んだクライマックスの見付け方を生かして選んだ物語の中心人物の気持ちを想像し、その変化を捉えていく。その際は、必要に応じて同じ本を選んだ友達と相談しながら気持ちの変化を想像し、クライマックスだと思う一文を選ぶ。見付けた一文をしおりに清書し、本時の学習を振り返る。</p>	

5 本時の学習

目 標	クライマックスの一文を選び、友達とその文を選んだ理由を交流する活動を通して、場面の移り変わり結び付けながら、のぶよの気持ちの変化について具体的に想像することができる。
--------	---

学習活動	主な子供の意識		
1 前時の学習内容を振り返り、本時の学習課題を設定する。	<p>クライマックスの一文を探すために、最後の場面までのぶよの気持ちを想像してきたね。3場面で大きく変化していたよ。</p> <p style="text-align: center;">クライマックスの一文を見付けよう</p>		
2 解決の見通しをもつ。	<p>今は変化を探しているから、『前の場面と…』などの技が大切になりそうだ。</p> <p>A今日は、一人で5分考えた後、同じ一文を選んだ友達と一緒に考えよう。</p> <p>Bいいね。僕は昨日、違う考えの友達と交流したら、自分が気付いていなかった言葉からも考えられて、のぶよの気持ちがもっと詳しく分かったよ。</p> <p>Aさんも計画の中に入れてみたらどうかな。</p> <p>Aそうなんだ。じゃあ私も今日は違う考えの人に聞いてみるよ。ありがとう。</p>		
3 立てた計画に沿ってクライマックスの一文を探す。 ・個人 ・自由交流 ・全体交流	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>A多くのマイナスの気持ちがほどけていった「次の瞬間…」だよ。</p> <p>違う文を選んだ人の理由を聞きたい。</p> <p>B「思わず…」の文だよ。それまでの体も重かった、とは逆の様子が書かれているところだと思うよ。</p> <p>Aそうか。「ぎゅん」という勢いも、それまでののぶよと違って、がんばろうという気持ちが分かるね。</p> <p>Bでも、Aさんが選んだ文も変わった後の気持ちだね。ここからプラスの気持ちが増えているね。例えば…。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>C「走れない」と書いてあったから「思わず…」の一文じゃないかな。</p> <p>同じ文を選んだ人に相談しよう。</p> <p>Dここまでずっと「憂鬱」「緊張」など、マイナスな気持ちだったから、僕もこの瞬間だと思ったよ。</p> <p>Cこの文のすぐ前も、もう走れないという逆の気持ちが分かるよね。</p> <p>D二人の声が同時に聞こえたことで変わっているね。けんかしていた二人から応援されたのが嬉しくてプラスになったんだ。他にも…。</p> </td> </tr> </table> <p>まだいろいろな考えの人がいるね。みんなで話し合いたいな。</p> <p>「おしりが…」ものぶよの気持ちが軽くなったことが分かるね。でも、その前の「思わず…」の文も気持ちが軽くなったからこそではないかな。</p> <p>二人の声がかぶさったところは気持ちが分かるころではなく、気持ちが変わったきっかけだね。ここから気持ちがどんどんプラスになっていくね。</p> <p>のぶよの気持ちが変わったことが分かる瞬間は「思わず…」の一文だね。</p>	<p>A多くのマイナスの気持ちがほどけていった「次の瞬間…」だよ。</p> <p>違う文を選んだ人の理由を聞きたい。</p> <p>B「思わず…」の文だよ。それまでの体も重かった、とは逆の様子が書かれているところだと思うよ。</p> <p>Aそうか。「ぎゅん」という勢いも、それまでののぶよと違って、がんばろうという気持ちが分かるね。</p> <p>Bでも、Aさんが選んだ文も変わった後の気持ちだね。ここからプラスの気持ちが増えているね。例えば…。</p>	<p>C「走れない」と書いてあったから「思わず…」の一文じゃないかな。</p> <p>同じ文を選んだ人に相談しよう。</p> <p>Dここまでずっと「憂鬱」「緊張」など、マイナスな気持ちだったから、僕もこの瞬間だと思ったよ。</p> <p>Cこの文のすぐ前も、もう走れないという逆の気持ちが分かるよね。</p> <p>D二人の声が同時に聞こえたことで変わっているね。けんかしていた二人から応援されたのが嬉しくてプラスになったんだ。他にも…。</p>
<p>A多くのマイナスの気持ちがほどけていった「次の瞬間…」だよ。</p> <p>違う文を選んだ人の理由を聞きたい。</p> <p>B「思わず…」の文だよ。それまでの体も重かった、とは逆の様子が書かれているところだと思うよ。</p> <p>Aそうか。「ぎゅん」という勢いも、それまでののぶよと違って、がんばろうという気持ちが分かるね。</p> <p>Bでも、Aさんが選んだ文も変わった後の気持ちだね。ここからプラスの気持ちが増えているね。例えば…。</p>	<p>C「走れない」と書いてあったから「思わず…」の一文じゃないかな。</p> <p>同じ文を選んだ人に相談しよう。</p> <p>Dここまでずっと「憂鬱」「緊張」など、マイナスな気持ちだったから、僕もこの瞬間だと思ったよ。</p> <p>Cこの文のすぐ前も、もう走れないという逆の気持ちが分かるよね。</p> <p>D二人の声が同時に聞こえたことで変わっているね。けんかしていた二人から応援されたのが嬉しくてプラスになったんだ。他にも…。</p>		
4 本時の学習を振り返る。	<p>今日は『走れ』のクライマックスを見付けることができたよ。</p> <p>その文が物語のクライマックスかどうか考えるには、その前後の文を見て、逆の気持ちか考えたり、きっかけがあるかを探すといいね。</p> <p>Bさんのおかげでもっと前から気持ちが変わっていたことに気付けたよ。</p> <p>たくさんの文章をつなげて考えたからクライマックスを見付けられたよ。</p> <p>いよいよ次からは、自分が選んだ物語のクライマックスの一文を探すぞ。</p>		

評 価	クライマックスの一文を見付けるためにどのように課題解決に取り組むか見通しを立てている。また、複数の叙述を関連付け、選んだ一文やその理由について友達と交流することで、のぶよの気持ちが、なぜ、どのように変わったのかについて想像している。【方法：発言、様相、表現物】
--------	--

6 本時の詳細 (は、共調整を促す手立て)

～ 課題設定 ～ **学習活動1**

単元を通して、授業の初めには前時に取り組んだことを振り返っている。そして、単元のゴールとそれに向けた計画を補助黒板に掲示しておくことで、単元のゴールを意識しながら、これまでにできたこととまだできていないことを捉えやすくし、まだできていないことの中から本時取り組むべきことは何かを考え、本時の課題として設定できるようにする。

～解決の見通し～ **学習活動2**

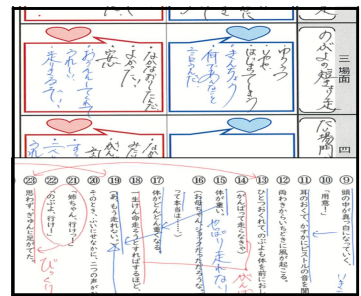
これまでの経験を基に、「目当てが決まった後はどうしますか」と教師が問いかけることで、方法を使って計画を立てていこう。その際、一人一人に学び方カードと、それを位置付けるシートを配布しておくことで、本時、何をどの順で取り組むかの計画を立てやすくする。立てた計画は、机の上に置いておき、友達と相談し合う場を設定することで、互いに計画を参照し助言し合えるようにする。また、毎時間の学び方について振り返っておくとともに、見通しを立てる際に「気持ちの変化を探す時には、どの『読みの技』が使えるですか」と問いかけることで、既習を基に「前の場面とつなげる」や「いくつかの言葉をつなげる」ことが大切であることを意識できるようにする。そして「取り組むこととその順序を決められたから、今から取り組むことがはっきりしたね」と方法を使ったことで計画を立てられたことを価値付け、方法のよさを感じられるようにする。



【計画を立てるシート】

～ 解決 ～ **学習活動3**

学習活動3では、前時までに捉えてきたのぶよの気持ちの移り変わりや場面の様子を基に、立てた計画に沿ってクライマックスの一文を選んでいく。一文を選んだら、拡大した本文上に自分の名前磁石を貼る。友達がどの文を選んだのか、考えの異同を捉えやすくすることで、友達の考えを聞きたいという意欲を高めるとともに、目的をもって交流相手を選べるようにし、考えの再考を促すことができるようにする。



【本時までのワークシートの例】

友達と交流する中で、「①話し合っても結論が出なかった」「②結論は出たが自信がない」「③いい考えを見つけたのでみんなに紹介したい」と子供が感じた時には、全体交流を提案してもよいこととそのよさを共有している。本時、子供たちから全体交流をしたいという意見が出れば、どうして全体交流をしたいと思ったのかを問い、他の人はどう思うか表出を促すことで話し合うことを焦点化し、どの文がクライマックスとして適切か議論する中で、のぶよの気持ちの変化について想像を広げられるようにする。教師は、残り時間や学級全体の学習の進捗状況を子供たちに伝え、全体で話し合う必要性を子供が感じられるようにする。全体交流では、同じ文を選んだ子供たちに対して他の叙述に着目した人はいないか問うたり、根拠となる叙述は同じでも違う一文を選んでいる子供に発言を促したり、②時で出し合った子供たちが疑問を感じた文を適宜提示したりするなどして、複数の叙述や場面の移り変わり結び付けながらのぶよの気持ちの変化に目を向けられるようにする。そして、クライマックスを見付けるためには、直前の文を見て、きっかけとなる出来事や、その文から分かる気持ちとは逆の気持ちが描かれているか探すとよいことを共有し、⑦時からの学習に生かせるようにする。

～ 振り返り ～ **学習活動4**

クライマックスの一文を見つけた後は、立てた本時の計画を見返しながら、本時の学習の取り組み方について振り返る。学び方カードの裏に表を設けておき、その技を使った時に日付を書き込むようにすることで、本時の学習の取り組み方を振り返りやすくする。その後、うまくいった技とうまくいかなかった技を分けて整理することで次の計画を立てる際の参考にできるようにするとともに、物語を精査・解釈する際の視点を意識できるようにする。共調整に関わる技についても振り返り、友達と関わったことが課題解決につながったことを捉えられるようにし、友達と関わることのよさを感じ、次の時間も友達と一緒に課題解決に向かおうとする意欲を高める。

